

**立教大学国際学術研究交流制度
在外研究
2017年度研究成果報告書**

研究代表者	所属部局・職		氏名	
	観光学部・教授		大橋 健一 印	
研究課題	社会主義体制下におけるトランスナショナルな人の移動に関する研究			
全研修期間	2016年9月10日 ～ 2017年9月10日 (366日間)			
経費	年度	申請額	所属学部からの補助額	助成額
	2016年度	2,381,000円	850,000円	1,531,000円
	2017年度	1,799,991円	850,000円	949,991円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
<p>本研究は、グローバル化の進む現代社会に多大な影響を与える重要な現象としてトランスナショナルな人の移動の動態的理解を目的とし、特にその際、従来の研究で等閑視されてきた社会主義体制下での移動に着目し、その特質を現地調査にもとづいて明らかにしようとするものである。現地調査にあたっては、社会主義体制を堅持しつつ東西冷戦終結後のグローバル化に柔軟に対応しながらグローバルな人の移動のハブとなっているベトナムを拠点とし、旧社会主義圏諸国とのトランスナショナルな人の移動の実態を、特にベトナムを結節とする重要な人の移動の発着地としてロシア・旧ソ連に着目しながら把握した。本研究は2016年9月～2017年9月の1年間を研究期間としており、2017年度は研究期間の後半部分に相当する。研究期間前半の成果を踏まえつつ、以下の3つの作業を基本として研究を進めた。</p> <p>1) ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学を拠点とした社会主義体制下のベトナムにおけるトランスナショナルな人の移動の歴史、および諸制度の変遷に関する調査研究</p> <p>2) モスクワ国立大学、ロシア科学アカデミー社会政治研究所を中心としたロシアおよび旧ソビエト連邦とベトナムとの間のトランスナショナルな人の移動に関する資料収集、研究者との研究情報交換・討論、およびロシアからベトナムへの観光移動の実態に関するヒアリング調査</p> <p>3) ベトナム・ニャチャンにおいて展開するロシア語話者による観光エンクレープ現象をめぐるベトナムおよびロシア双方における実態調査</p> <p>1) については、文献による調査に加え、特に「ドイモイ (刷新)」政策導入以前に旧ソビエト連邦、東欧社会主義国への移動経験者に対してインタビュー調査を実施し、複数のライフヒストリーを聴取し、その移動経験の実態を把握することができた。その成果からは、ベトナム人移動者の移動先とその経験の多様性が明らかとなり、特に旧ソビエト連邦の空間的広がりの中で中央アジア地域、とりわけタシケント (現ウズベキスタン) が重要な移動の拠点となっていたことが明らかとなった。</p>				

研究成果の概要 (つづき)

2) については、2017年6月16日～7月5日にモスクワを訪問し、各種研究作業を行なうとともに、旅行会社に対してヒアリング調査を実施し、ロシアからベトナムへの観光旅行の動向についてその実態を把握することができた。この調査を通してロシアにおける地域間、社会階層間の格差と観光市場、観光目的地の差異との関係性が明らかとなり、その動向を背景としながらロシア人にとっての観光目的地としてのベトナムの意味を明らかにすることができた。

3) については、2017年5月1日～7日にベトナム・ニャチャンにおいて、また2017年6月9日～13日にニャチャンへの移動経由地としてのホーチミン市において現地調査を実施し、ロシアからベトナムへの観光移動とニャチャンにおいてロシア語話者が形成する観光エンクレーブの実態について把握した。また、発地側の状況を把握するため2017年8月21日～9月5日にはニャチャンへのロシア人観光の発地の中で大きな割合を占める極東ロシア地域の代表都市ウラジオストク、ハバロフスク両市においてニャチャンへの観光経験者へのインタビュー調査、旅行会社に対する調査を実施し、ロシアからニャチャンへの観光移動における極東ロシア地域の重要性を明らかにすることができた。

全研究期間の前半に相当する昨年度の調査研究においては、主としてベトナムからロシア、東欧へのベトナム人の移動の実態の解明を中心に取り組んだのに対し、研究期間の後半に相当する本年度においては、上記の調査研究作業を通して、主としてロシアおよび旧ソビエト連邦構成諸国からベトナムへのロシア人およびロシア語話者の移動の実態の解明に取り組んだ。これら複数の移動の方向性を踏まえた実態を把握することにより、当初の研究計画において構想したベトナムをハブとするトランスナショナルな人の移動の動的な実態解明を行うことができ、ベトナムにおける「ドイモイ(刷新)」政策導入後、ソビエト連邦崩壊後も依然としてロシア、旧ソビエト連邦構成諸国、東欧旧社会主義諸国がベトナムをめぐるトランスナショナルな人の移動において重要なチャンネルをなしていることが明らかとなった。また、その動向においてかつての労働や就学に加えて、観光移動が現代的な移動の形態として重要性を増していることが明らかとなった。

キーワード (研究内容をよく表しているものを5項目で記入)

[社会主義体制] [人の移動] [トランスナショナリズム] [ベトナム] [ロシア]

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

②OHASHI, Kenichi. The Emergence of Russian Speaking Tourism Economy in Nha Trang, Vietnam: A Preliminary Study on the Social-Political Contexts. In *Critical Issues for Sustainable Tourism Development in South East Asia*. Hanoi: Vietnam National University Press. 2017. pp.95-103.

②大橋健一「『ソーシャリスト・モビリティーズ』の現代的展開－ベトナムと旧ソ連・ロシアとの関係を中心に」栗田和明編『移動と移民－複数社会を結ぶ人びとの動態』京都：昭和堂、2018年、pp. 89-113

④OHASHI, Kenichi. The Emergence of Russian Speaking Tourism Economy in Nha Trang, Vietnam: A Preliminary Study on the Social-Political Contexts. The FTS 2017 International Conference on Critical Issues for Sustainable Tourism Development in South East Asia. 2017年11月2日。於：ハノイ・ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学。

④大橋健一「ロシアのアジア回帰：観光交流の動向と展望」富山大学研究推進機構極東地域研究センター主催 富山県・ロシア沿海地方友好25周年記念シンポジウム「ロシアのアジア回帰：環日本海交流はどう変わるか？」2017年11月16日、於：富山市・富山県民会館

④大橋健一「The Dynamics of Russian-Speaking Tourism Mobilities in Nha Trang, Vietnam」ロシア諸民族友好大学 (RUDN) 経済学部国際経済関係学科講演、2018年3月15日、於：モスクワ・ロシア諸民族友好大学 (RUDN)。

④大橋健一「The Emergence and Dynamics of Russian-Speaking Tourism in Nha Trang, Vietnam」ロシア科学アカデミー社会政治研究所セミナー研究発表、2018年3月15日、於：モスクワ・ロシア科学アカデミー社会政治研究所。

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。